

市川市立博物館 平成28年度事業に対する外部評価

評価基準 A：参加者数、内容、参加者満足度すべてに見込みを上回る成果を得ることができた。（目標の90%以上）
 B：ほぼ見込みどおりの結果を得た。（目標の80～75%程度）
 C：改善の余地があるものと考えられる。（目標の60%程度）
 D：今後の計画に際しては、実施を含めて検討する必要があると思われる。（目標の50%に満たない）

事業種別	館名	館別意見（概略）	館別自己評価	総合自己評価	外部意見等	外部評価	
収集・保管及び調査研究	考古	市史編さん事業と連動した形で市内の自然貝塚の調査を進め、見込み通りの成果があがった。しかし、本年度は曾谷貝塚の報告書作成ができなかった。	B	B	・自然博物館の評価がCとなっている。昨年度も課題として挙がっていたと思う。特にデジタル化は予算をつけて進めていく必要がある。デジタル化等の作業はボランティアを頼んだり、予算化して進めていくことが大切である。 ・自然博物館のように、非常勤職員やボランティアの協力を得て、資料の保管やデータベース化を行えばいいのだが、予算もあるので難しいと思う。	B	
	歴史	借用資料整理や寄贈図書の整理登録は年間を通して実施することができたが、図書館所蔵歴史資料調査や資料、古写真のデータベース化は殆どできなかった。	B			B	
	自然	収蔵資料のデータベース化やスライドフィルムデジタル化が進行しなかった。	C			B	
展示	考古	常設展示室の展示替えを実施した。また、ホール小展示や速報展を実施し展示の充実を図った。	B	B	・特にありませんでした。	B	
	歴史	企画展「発見体験昔の暮らし」や「季節の展示」を実施し、展示の充実を図った。	B			B	
	自然	展示解説を来館者の動向に合わせて臨機応変に対応した。ホール小展示では、飼育展示や化石の展示を中心に好評を得た。	B			B	
市民向けの教育普及	生涯学習拠点としての市民の学びと体験を支える事業	考古	講演会や博物館講座については、ほぼ見込み通りの結果を得ることができた。また、3回のフェスティバルについても概ね好評であった。	B	B	・特にありませんでした。	B
	歴史	博物館講座や季節の行事体験等については、受講者や参加者の増加により成果を上げることができた。	B	B			
	自然	自然観察会、野草名札付け、大町自然観察園環境整備等は例年実施している行事であり実績は安定している。	B	B			
学校関連の教育普及	子どもの成長や学びを支援する事業	考古	小学生向け体験学習や出前授業は学校からの申込みも多く好評であった。また、教員対象の研修会を受け入れ、好評であった。	B	B	・考古博物館教育普及事業の学校連携「高校生ボランティア活動支援」について、C評価となっているが、どうしてなのか。他の事業と比較しても評価が厳しいのもう少し上げてもいいのではないかとあるが、どのような調整方法を考えているのか。電話だけでなく、インターネット等での受付は考えているのかどうか。 ・考古、歴史博物館で取り組んでいる体験学習や出前授業については、今の体制では対応が難しいのではないかと。 ・新しい学校支援として、小学校内の空き教室に博物館資料を活用した展示室を作ってはどうか。 ・B評価が多くなっている状況にあるので、事業によってはチャレンジするものもあっていいのではないかと。	B
	歴史	小学生向け体験学習については、多くの学校が満足しており好評である。社会科副読本「わたしたちの市川」の制作協力を行った。	B	B			
	自然	小学生向け自然体験学習や出前授業等例年通り実施した。また、教員研修会への支援も行った。	B	B			
地域連携の教育普及	地域の文化やコミュニティをサポートする事業	考古	公民館講座や博物館友の会主催、共催の見学会等を実施し好評であった。	B	B	・特にありませんでした。	A
	歴史	公民館講座への講師派遣や博物館友の会事業への協力、また、市民団体や地元民俗行事協力を例年通り行った。	B	B			
	自然	公民館や市民団体等の講座講師依頼や出張展示・展示解説及び出張体験指導の依頼に対し適切に対応した。	B	B			
運営		考古	「考古・歴史博物館だより」を年4回発行し、事業内容をアピールした。	B	B	・特にありませんでした。	B
	歴史	「考古・歴史博物館だより」を年4回発行し、博物館事業を理解してもらう手立ての一つとなった。	B	B			
	自然	「自然博物館だより」や自然博物館行事案内を発行し、事業内容をアピールした。	B	B			